

ハウス食品グループ大阪本社

House Food Group Osaka Head Office

No. 05-047-2017作成

新築
事務所

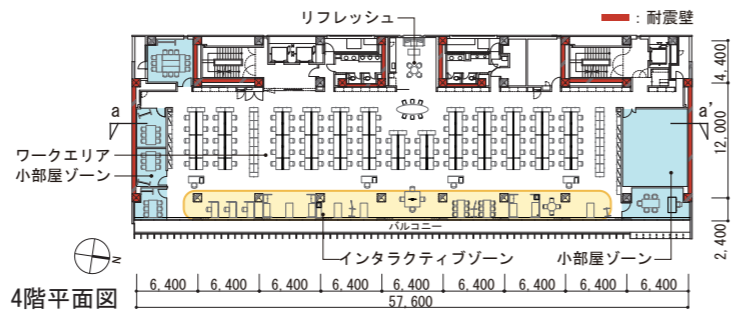
発注者	ハウス食品グループ本社株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

居住性と環境負荷低減の高次元での両立

食品メーカーとしての創業の地における本社建替事業である。「ハウス食品グループの一体感」、「地球環境へ配慮」、「事業継続性の確保」を基本方針に掲げた新社屋には、部署間の連携を促し組織変更に柔軟に対応できる執務空間が求められた。居住性と環境負荷低減の高次元での両立をめざし、タスクアンビエント/ダクトレス空調と明るさ感演出照明を組合せた天井デザインを執務室に用いるなど、さまざまな工夫を行っている。外装は東面に眺望と採光を活かし適度な日射遮蔽を可能にする縦ルーパーを設けるなど、それぞれの周辺環境に呼応したファサード構成がなされている。建物全体を覆う大屋根は各ファサードの異なる表情を統合すると同時に、この地に新たな『家』を構えて永続的に根づき、地域と共に歩もうとする企業の意志を象徴している。

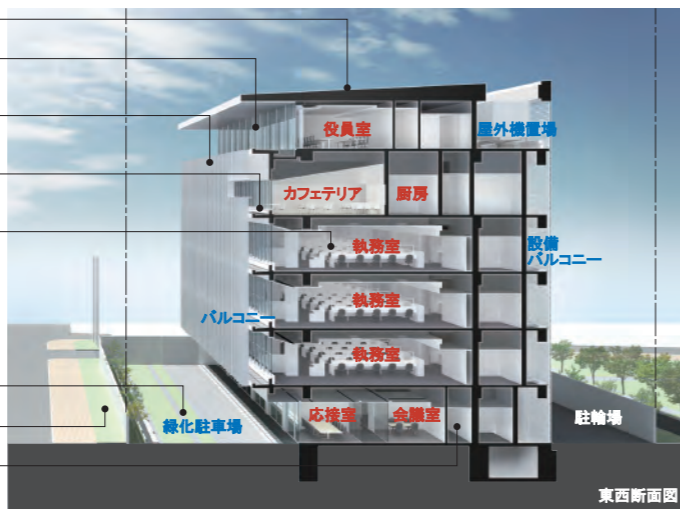


外観全景（東面）



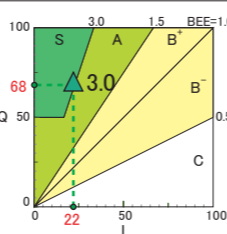
所在地	大阪府東大阪市
竣工年	2013年
敷地面積	3,264 m ²
延床面積	6,462 m ²
構造	RC造 一部S造
階数	地上6階

- 大屋根**
 - 鉄骨造による企業イメージの外観表現
 - 複層ガラスによる断熱強化
 - 電動ブラインドによる日射遮蔽と昼光利用
- 縦ルーパー**
 - アルミ製縦ルーパー
 - 日射を遮蔽しつつ反射面による昼光利用
- バルコニー**
 - 深い庇が日射を遮蔽し空調負荷を低減
 - 避難/消防経路とメンテナンス性を確保
- 照明**
 - タスクアンビエント照明
 - 明るさ感演出照明
- 空調**
 - コアンダー効果によるダクトレス空調
 - タスクアンビエント空調
- BCMS**
 - クラウド型エネルギーマネジメントシステム
- 緑化駐車場**
 - 応接室から借景する庭園として整備
- 歩道緑化**
 - 太陽光発電による外構照明
- 共用部照明**
 - 人感センサーによる制御
 - LED照明

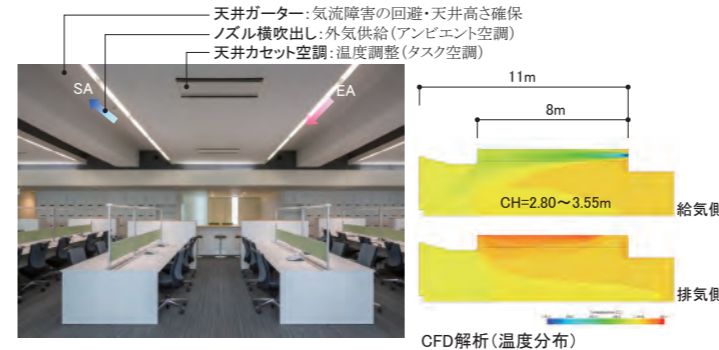


省エネルギー性能	
PAL削減	31%
ERR (CASBEE準拠)	37%
LCCO ₂ 削減	28%

CASBEE評価	
Sランク	
BEE=3.0	
2010年度版自治体提出	



■省エネと快適さを高水準で両立させた空調/照明システム



タスクアンビエント空調/ダクトレス空調

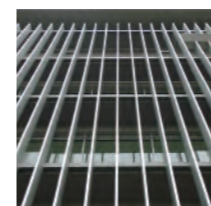
省エネ、柔軟な空調システム

新鮮外気を処理するアンビエント空調機と室内負荷を処理するタスク空調機を分割。中間期にはタスク空調を停止し、省エネ運用が可能。タスク空調は運転区分を細分化し、在・不在に応じたきめ細かい運用に対応する。

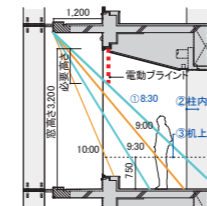
空調システムを建築化した天井

アンビエント空調は天井ガーター内にノズル横吹出しとし、ダクトを大幅に削減。タスク空調は天井カセット型とし個別のニーズに即応する。溝状の高天井は空調相互の気流障害の回避と執務空間のゆとり確保に大きく寄与している。

■窓まわりの日射遮蔽と昼光利用



ルーパー見上



日射遮蔽検証

	8:30	8:45	9:00	9:15	9:30~
5/21~7/23 夏至(6/22)				庇こより、ブラインド不要	
9/23, 3/21 春秋分	1,200	1,000			
10/24, 2/29 +ブラインド使用時間最長	1,500	1,350	1,150	900	
12/22 冬至	1,800				縦ルーパーにより、ブラインド不要

ブラインドの必要時間と高さ

バルコニー+縦ルーパーによる日射遮蔽

非常用出入口を兼ねるバルコニーと縦ルーパーの組合せにより、優れた眺望は維持しながら直達日射を遮蔽、空調負荷を軽減。

ブラインドのスケジュール管理による昼光の積極利用

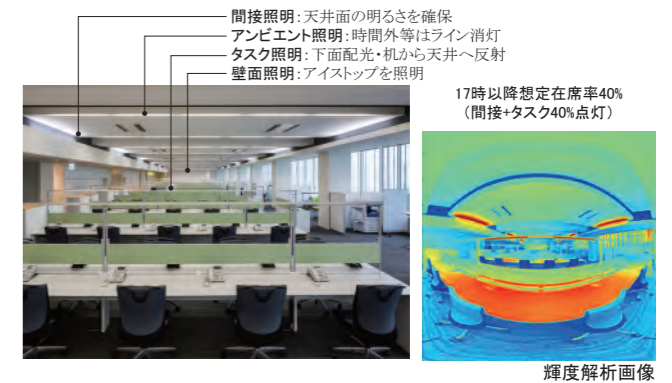
東面から深く射し込む日差しに対し、電動スケジュール管理によりブラインドの高さを適正レベルに自動開閉し、昼光を最大限に活用。

設計担当者

統括：米田浩二/建築：花岡洋、相原幸一、横山翔大/構造：樋口聡、島田侑/設備：弘本真一、神谷麻理子、津脇康宏、久米彌、遠藤芳信、多羅間次郎/サイン・グラフィック：鈴木一成

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3 .3. 地域性・アメニティへの配慮 (豊かな中間領域、地域の歴史性)
- LR1.1. 建物外皮の熱負荷抑制 (PAL性能、庇・バルコニー・ルーパー)
- LR1.3. 設備システムの高効率化 (ERR性能、タスクアンビエント空調、ブラインド)
- LR1.4. 効率的運用 (CO₂見える化)
- LR2.3. 汚染物質含有材料の使用回避 (ノンフロン断熱材)
- LR3.1. 地球温暖化への配慮 (LCCO₂削減、緑化駐車場)



タスクアンビエント照明/明るさ感演出照明

省エネ、柔軟な照明システム

全般照明であるアンビエント照明の照度を300~350lxに抑え、各デスクのタスク照明と合わせて必要照度を確保。シーンに応じて必要な照明を選択。タスクアンビエント照明の利点を活かし、在席エリアのみに点灯できる省エネ仕様。昼休みや残業時、休日出勤においても必要照度は限定エリアのみの点灯で確保すると同時に、壁面照明と間接照明により効果的に執務室全体の明るさ感を演出。

■地域・社会への貢献



歩道の緑化



駐車場の緑化

歩道の緑化

歩道に沿って四季折々の変化を楽しめる緑地を整備。近隣住民に配慮し太陽光発電による照明設備を配置した。

駐車場の緑化

附置義務駐車のうち応接エリアに面した約20台分を庭園風に緑化し駐車場として利用しないときも環境に配慮。